



TITLE:

戸數割及戸別割ヲ論ズ

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

---

CITATION:

神戸, 正雄. 戸數割及戸別割ヲ論ズ. 經濟論叢 1916, 2(2): 153-176

ISSUE DATE:

1916-02

URL:

<https://doi.org/10.14989/126964>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

# 經濟論叢

第二卷 第二號

## 論說

●戸數割及戸別割ヲ論ズ

法學博士 神戸 正雄

●戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題ト

講師 米田 庄太郎

●民族の自覺ト植民地土民ノ教育

助教授 山本 美越乃

## 研究

●不換紙幣ノ價格ニ就テ

法學博士 戸田 海市

●大藏省證券ノ割引歩合ニ就テ

法學士 三木 純吉

●保險學說ノ發展(二卷)

法學士 小島 昌太郎

## 雜錄

●中田公直氏遺著「佐藤信淵ノ農政學說」

同志社大學教授 瀧 本 誠 一

●米ノ生産費ニ就テ

助教授 河 田 嗣 郎

●商業道德ト時勢ノ變

法學博士 神 戶 正 雄

●家庭ニ關スル新統計調査例

教授 財 部 靜 治

●中歐經濟同盟說ニ就テ

法學博士 小 川 郷 太 郎

●幼兒死亡ト貧困

法學博士 河 上 肇

●米國ニ於ケル各國移民ノ消長

助教授 山 本 美 越 乃

●小國ノ將來

講師 高 田 保 馬

●紹介——祖國ヲ顧ミテ(河上博士著)孤立國(谷井法學士譯)蘇峰文選(徳富猪

一郎著)

# 經濟論叢

第二卷

第二號

(通卷第六號)

## 論說

### 戶數割及戶別割ヲ論ズ

法學博士 神戸 正雄

緒言(地方税ノ重要、日本ニ於ケル戸數割及戶別割ノ重要)

第一段 戸數割及戶別割ノ現在

其一 戸數割及戶別割ノ地位、戸數割及戶別割ト他ノ税、特ニ所得税附加税トノ比較、日獨比較

其二 戸數割及戶別割ノ本質

(一)定義(二)課税權者(三)課税物件(四)納税義務者(五)戸數割ノ配賦標準(六)戸數割ノ配賦率(七)戸數割ノ課税標準(八)戸數割ノ税率(九)戶別割ノ課税標準及税率(十)代用税(十一)性質

第二段 戸數割及戶別割ノ改造

(一)統一的標準ノ要求(二)所得税中心ノ要求(三)國稅附加税トシテノ所得税(四)戸數割、戶別割存續ノ餘地(五)所得税附加率ノ擴張(六)戸數割、戶別割ノ課税標準ト税率

結論(全篇ノ要旨)

論說 戸數割及戶別割ヲ論ズ

第二卷 (第二號一)

一五三

## 緒言

地方財政ニ在ツテハ國家財政ト異ツテ財産及營業收入ニ待ツヘキモノ少シトセヌ。ガ併シ現代ノ事情ノ下ニハ所詮、地方稅ヲ缺クコトヲ得ヌ。地方稅ナキ地方團體ガ日本ニモアリ外國ニモアル所デハアルガ、其ハ今日ノ情勢ニ於テハ寧ロ良好ノ制度ト認メラレヌ。地方稅ノ過重ナルコトハ固ヨリ望マシクナイガ、其ノ相當ニ之レアルコトハ却ツテ人民ヲシテ公共事務ニ利害及興味ヲ有タシメ、公共團體ヲシテ健全ナル發展ヲ遂ケシムル所以デアル。デ地方稅ハ孰レノ國ニ於テモ一ノ重要ナル問題デアル。中ニ就イテモ日本デハ戶數割及戶別割トイフ獨特ノモノガアツテ、其ガ最重キヲ成ス所デアルカラ、之ガ本質ヲ明ニシ、其ノ果シテ適當ナリヤ否ヤ、不適當トセバ如何ニ改造スヘキヤヲ研究スルコトガ地方財政ニ取リテ最重要ナル問題ノ一デアル。斯ク此問題ガ日本ノ地方財政ニ取リテ重要ナルニ拘ラズ、從來學者ヨリ等閑視サレ來ツタ嫌ガアル。註二予ハ之ヲ遺憾ニ思ツテ豫子テ之ニ注意シテ居タガ故ニ、茲ニ今日迄ノ之ニ關スル研究ノ結果ヲ纏メテ公表スルコトト

スル。

(註) 小林丑三郎博士ノ之ニ關スル研究 \* ハ頗ル精細デハアルガ、大ニ異論ノ挟ムヘキモノガアル。  
本多精一氏ガ其著 \*\* ニ於テ戸數割及戸別割ノ不公平ヲ説カルルノニハ賛成スルガ、之ニ代ハ  
ルヘキ提案ニハ同意スルコトヲ得ヌ其他予モ亦屢々之ニ論及シタコトハアルガ、其ハ茲ニ列舉  
スルノ値ガナイ。

## 第一段 戸數割及戸別割ノ現在

### 其一 戸數割及戸別割ノ地位

日本ニ獨特ナリトイフ其戸數割及戸別割ハ日本ノ地方財政ニ於テ如何ナル地位ヲ占メテ居ルカ。彼等ハ實ニ其ノ最重要ナル租稅收入ノ少クトモ一デアリ、特ニ一般的給付能力ヲ捕捉スヘキ所得稅ノ附加稅ニ比較シテハ一層重要デ、特ニ町村ノ場合ニハ他ノ諸稅ヲ超越シタル非常ニ重キ地位ヲ占ムル。(註三) 恰カモ其カ獨逸ニ於ケル所得稅附加稅ノ地位ニ該當スル。(註三) ノハ大ニ興味ガアル。

(註二) 日本ノ戸數割及戸別割ノ諸他ノ地方稅關ノ地位ヲ各統計書 \*\* \*\* ニ就キ得タル數字カラ計算シテ見ルト左ノ如クデアル。(百分比)

論說 戸數割及戸別割ヲ論ズ

第二卷 (第二號三)

一五五

\* 小林博士 地方財政學四六五乃至四六七頁四七二頁及四九三頁以下

\*\* 本多精一氏 地方財政問題一〇八乃至一一〇頁一七四乃至一八七頁

\*\*\* 日本全體ハ、日本帝國第三十四統計年鑑、各府縣各地ノ分ハ最近、長崎、香川、滋賀、富山、東京、宮城、各府縣統計書、



滋賀縣内 (大正二豫)	七・五	一六	六・九	100.0
富山縣内 (明四三決)	六・九	一九	三・三	100.0
東京府内 (明四四決)	五・五	七・三	七・五	100.0
宮城縣内 (大正二豫)	七・三	二・三	二・六	100.0

右ニ於テ府縣及町村ノ部ニ於テハ戶數割又ハ戶別割カ所得稅附加稅ニ比シテ遙カニ大ナルニ、獨リ市區ノ部ニ於テ戶別割カ所得稅附加稅ト略モ匹敵スル程ナルハ、畢竟市區ニテハ戶別割ヲ有ツ代リニ家屋割ヲ選ブモ多キガ爲メデアル。デ戶別割ト家屋割トヲ合計スルト、三七・六ニナツテ、所得稅附加稅ノ一二・二ニ對スルニ於テ恰カモ三倍餘ニ當ルコトナル。又特例ノ處ニ就イテ戶別割ノミチ有スル市ヲ見ルト孰レモ其戶別割カ所得稅附加稅ヨリモ遙カニ人キイ。戶數割及戶別割カ所得稅附加稅ヨリモ大ナルコトハ我國ノ地方稅ニ於ケル通態デアル。

(註三) びるんばうむ \* ノ原數字ニ依ツテ計算シテ見ルト普魯西ノ市及人口一萬以上ノ村ニ於ケル所得稅ト其他ノ諸稅トノ關係的地位ハ下ノ如クデアル。(百分比)

一九一〇年決算	所得稅	土地及家屋稅	營業稅	其他諸稅	計
普・國全市	五・一	五・三	一〇・八	一〇・九	100.0
普國人口一萬以上ノ村	四・五	二・六	一四・六	二・五	100.0
計	五・七	五・一	一・五	一〇・九	100.0

更ラニろんべる \* \* ノ數字ニヨツテ特定ノ獨逸ノ大都市ニ於ケル所得稅ト其他諸稅トノ關係的地位ヲ見ルト左ノ如クデアル。(百分比)

一九一四	所得稅	土地及家屋稅	營業稅	其他諸稅	計
五年豫算	五・〇	二・三	一〇・六	八・六	100.0
ぶれすらう	五・〇	二・三	一〇・六	八・六	100.0
ふらんくふる	五・〇	二・三	一〇・六	八・六	100.0
あんまいん	五・〇	二・三	一〇・六	八・六	100.0

論說 戶數割及戶別割ヲ論ズ

\* Birnbaum, Die Gemeindlichen Steuersysteme in Deutschland. S. 49.  
 \*\* Rompel, Städtische Finanzen vor dem Kriege. (in Finanzarchiv. 32 Jg. 2 Bd. S. 339 ff.)

ちつせざるふ	五・五九	二・九七	九・二二	一三・二二	100・0	ける	人	五・六七	一八・五五	二二・七八	二二・五〇	100・0
しやるるてん												
ぶるひ	五・七一	三〇・三三	税増	移轉	六・二二	税大	税貨	店	十・五二	100・0		
		ム	ナ	ム	ナ	ム	ム	ム	ム	ム	ム	ム

## 其二 戸數割及戸別割ノ本質

(一) 戸數割及戸別割トハ如何ナルモノカ。予ハ先ツ之ヲ定義シテ、戸數割トハ北海道又ハ府縣ガ其住民ノ戸(又ハ世帯)ニ對シテ賦課スル所ノ租稅デ、戸別割トハ市區町村ガ前者ニ對スル附加稅トシテ賦課スル所ノ租稅デアルトイフ。デ、(二) 兩者ノ差異ハ本稅ト附加稅トイフコトノ外、其課稅權者ガ道府縣ナルト市區町村ナルトノ點ニ在ル。(三) 其課稅物件ハイフ迄モナク孰レノ場合ニモ戸又ハ世帯デ、(四) 其戸主又ハ世帯主ガ納稅義務者トイフコトナル。但ダ其戸トハ戸籍上ノ戸デハナク、寧ロ世帯トイフ方が明確デアリ、ツマリ經濟上ノ意義ノ戸デアル。經濟生活ノ單位タル戸デアル、斯ク戸數割及戸別割ノ戸ハ他ノ意義ノ戸ト混同サレ易キ故ニ、府縣ニヨツテハ其府縣稅賦課規則ニ於テ其説明ヲ與フルモ少クナイ。而モ其表ハシ方が府縣ニヨツテ異ル爲メ、細イ所ニナルト違ツタ扱ヲスルコトニナル。(註四) 此稅ニハ所得稅ノ如キ免稅點ハナイ。甚シキ貧困者デナイ限りハ凡ヘテ賦課セラルコトナル。(註五)



(註四) 戸ノ説明ノ仕方ハ非常ニ區々ニ出テテ居ルガ(大體左ノ數種ニ分ルコトが出来ル。\*問題ハ特ニ同居者ニツイテ起ル。

(1) 生計ヲ異ニスルト否トニヨリ區別スルモノ例之埼玉縣(同居者ト雖モ生計ヲ異ニスルモノハ一戸ヲ構エタルモノト見做シ各別ニ戸數割ヲ賦課ス)ノ如シ。高知縣石川縣千葉縣モ略ホ同様ノ規定ヲ有ツ。群馬縣モ略ホ同様ノ本文ヲモツカ、但書ニヨツテ例外ヲ認メテ多少異ル結果トナツテ居ル。同居スルモ生計ヲ異ニスルモノハ一戸ヲ構エタルモノト見做ス。但シ一定ノ賄料ヲ支拂ヒ寄寓スル者ハ此限ニ非ス)

(2) 爨炊ヲ異ニスルト否トニヨリ區別スルモノ例之大分縣左ノ各號ニ該當スル現住者ニ之ヲ賦課ス。一、本籍寄留戸主家族ノ別ナク現住シテ一戸ヲ成スモノ、二、同居異爨ノモノノ如シ。京都府(各戸異爨同居者共ニ賦課スモ亦此ニ入ルコトが出来ヤウ。此ニ依ルト同居同炊者ハ假令生計ヲ異ニスルモ別戸トハ認メナイト解シナクレバナラヌ。

(3) 異炊又ハ異生計ニコツテ區別スルモノ假之岩手縣同居ニシテ爨炊若クハ經濟ヲ異ニスルモノハ一戸ヲ構ユル者ト見做ス)ノ如シ。滋賀縣鹿兒島縣靜岡縣モ略ホ同様デアアル。此ニ依ルト同居ニシテ經濟ヲ同フスルモ異炊スレバ別戸ト認メラレルコトナル。此點ニ於テ第一ト異ル。同居同炊スルモ家計ヲ別トスルモノハ別戸ト認メラレルコトナル。此點ニ於テ第二ト異ル。

(註五) 甚シキ貧困者トハ貧民救助ニ與カルモノノ如キナイフ。學生々徒工女徒弟藝妓ノ如キハ見様ニコツテハ少クトモ其一部ノモノハ獨立經濟ヲ立ツルモノトモイヘルガ(通例斯ノ如キモノト認メナイデ課税ノ外ニ置ク。

(五) 然ラバ戸數割及戸別割ノ賦課ノ方法如何トイフト、先ツ其中ノ本税タル戸數

\* 埼玉縣、高知縣、石川縣、千葉縣、岩手縣、靜岡縣、滋賀縣、鹿兒島縣、各縣稅賦課規則、大分縣及群馬縣々稅賦課徵收規則、京都府郡部府稅賦課規則、

割ノ配賦標準及(六)配賦率カラ説カナケレバナラス。本税ハ道府縣ガ直接ニ人民ニ賦課スルノデナク、一旦管内ノ市區町村ニ一定ノ方法ニヨツテ配賦スル。其ヲ各市區町村ガ更ニ市區町村自ノ決定ニ基キ人民ニ賦課スルノ手續ヲ取ルコトトナル。(註六)其ノ府縣ガ管内ノ各市町村カラ取立テシムヘキ各總額ヲ定メルノニハ、或ハ(一)單ニ年々ノ府縣歲入豫算ニテ定メタル平均課率ヲ各市町村ノ戶數ニ乗ズルノ法ニヨリ(註七)或ハ(二)年々府縣ノ歲入豫算ニテ定メタル平均課率ヲ管内總戶數ニ乗ジテ戶數割トシテ取立ツヘキ總額ヲ定メタル上、之ヲ更ニ(a)或ハ其一半ハ各市町村ノ戶數ニ依リ、他半ハ各市町村ノ稅額ニヨツテ配當シ、以テ各市町村ノ戶數割負擔總額ヲ定メ(註八)(b)或ハ一半ハ各市町村ノ稅額ニヨリ、他半ハ各市町村ノ宅地々價ニヨツテ配當シ、以テ各市町村ノ戶數割負擔總額ヲ定メル。(註九)(七)斯ノ如クニシテ配賦サレタル各市町村戶數割負擔總額ハ各市町村ニ於テ課稅標準ヲ定メ、適當ニ等級ヲ設ケテ管内各戶ニ賦課スルコトトナル。此課稅標準ニツキテハ(一)多クノ府縣デハ之ガ決定ヲ各市町村ニ一任スルカ、(註十)(二)或府縣デハ之ニ關スル一般の標準ヲ示シテ各市町村ヲシテ據ル所アラシムル。(註十一)斯クテ一府縣内デモ(一)ノ場合ニハ課稅標準ガ極メテ區々ニナリ、(二)ノ場合ニモ多少ノ斟酌餘地ノ與ヘラル

ルダケデハ區々ニナル。結局日本ノ全體カラ見レバ其課税標準ガ全ク不統一トナル。而シテ其ノ府縣ニ於テ一般的標準ヲ定ムルト否トヲ問ハズ、方今各府縣又ハ各地ニ行ハルル課税標準ハ、(一)住屋ノ大サ又ハ賃貸價格ニ依ルモノ、(註十二) (二)世帶主及其附屬者ノ所得、財產ニ依ルモノ、(註十三) (三)其生計、情態ニ依ルモノ、(註十四) (四)住屋ノ大サ又ハ賃貸價格ト世帶主ノ所得、財產トニ依ルモノ、(註十五) (五)世帶主ノ所得、財產ト其租稅額トニ依ルモノ、(註十六) (六)住屋ト所得、財產ト生計、情態トニ依ルモノ、(註十七) (七)住屋ト所得、財產ト租稅額トニ依ルモノ、(註十八) 等ニ分ツコトガ出來ル。然ラバ(八)戶數割ノ稅率ハ如何トイフト、右ノ課税標準ガ通例個數ニテ表ハサルコトナリ、各市町村內ノ全個數ヲ以テ其市町村ノ戶數割ノ總負擔額ヲ除シテ、一個數ニ對スル稅額ヲ定メ、之ヲ管内各戶ノ個數ニ乗ジテ各戶ノ納稅額ヲ定ムルコトトナル。斯クテ生ズル各戶ノ等級ニ付テハ或ハ最小數ヲ指定スル府縣モアル。(註十九) 又各戶ノ課額ノ最高額ヲ指定スルモアル。(註二十)

(註六) 戶數割ノ賦課ニ關スル細目ハ府縣制第一〇九條府縣會ノ議決ニヨリ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得ルノ規定ニ基ク。北海道ニ付テハ北海道地方費法第七條ニヨリ府縣稅ニ關スル規定ヲ準用スルコトトナル。

(註七) 例之、神奈川縣(當該年度豫算ニ定メタル課率ヲ其賦課期日ニ於ケル市町村現住戶數ニ乗ジ其





割賦賞與金、六、家屋ノ賃貸價格七、所得稅ヲ賦課セラレザル者ノ所得金額但シ直接國稅又ハ直接縣稅ヲ賦得スル業務ニ伴フ所得ヲ除ク、戶數割ノ標準ハ右ノ第一號乃至第五號ノ種類中ヨリ採擇スルヲ常例トシ、町村ノ狀況ニヨリテハ、郡長ノ認可ヲ受ケ、第六號第七號ノ種類ヲ加フルコトヲ得。但シ直接縣稅又ハ其課稅標準物件ハ直接國稅又ハ其課稅標準以上ニ比率スルヲ得ズ、埼玉縣左ノ各號ニヨリ賦課ノ等差ヲ設クヘシ。但シ第八號以下ハ町村ノ狀況ニヨリ之ヲ取捨スルヲ得。一、地租額、二、所得稅額、三、國稅營業稅額、四、醬油造石稅額、五、縣稅營業稅額、六、縣稅雜種稅額、七、住家、八、土地、九、住家外ノ建物、但シ縣稅ヲ賦課スル工場ヲ除ク、十、給料報酬手當金、十一、公債社債券ノ利子、及各種株券ノ利益配當額、十二、辯護士執達吏代書人ノ取扱件數又ハ收得金額、十三、醫師接骨師ノ治療患者數又ハ收得金額、十四、產婆ノ產婦取扱數又ハ收得金額、十五、獸醫蹄鐵工ノ取扱件數又ハ收得金額。\*\*\*\*\*

(註十九) 例之、鹿兒島縣等差ハ其實況ニ應シ、少クトモ五等ヲ下ラザルコトヲ要ス、靜岡縣賦課ノ等級ハ少クトモ十等以上ニ區分シ云々。\*\*\*\*\*

(註二十) 例之、大分縣一戶ノ課額ハ歲入豫算ニ定メタル課額ノ三十倍ヲ超過スルコトヲ得ズ、靜岡縣一戶ノ最高課額ハ普通課額ノ五十倍以下トス。\*\*\*\*\*

(九) 右ノ如クニシテ定メラレタル戶數割ニ對シテ、各市町村ガ其必要ニ應ツテ稅率ヲ定メ附加スルモノガ則チ戶別割、デ隨ツテ戶別割ハ戶數割ト其課稅標準ヲ同一トスル。(註二十一)

(註二十一) 法ノ根據ハ市制第十七條、町村制九十七條、

\*\*\*\*\* 神奈川縣郡部縣稅賦課規則、埼玉縣々々稅戶數割等差設定ニ關スル標準、  
\*\*\*\*\* 鹿兒島縣戶數割等級設定標準、靜岡縣々々稅賦課規則、  
\*\*\*\*\* 大分縣稅賦課徵收規則、靜岡縣稅賦課規則、

(十) 右戸數割及戸別割ニ代ハルモノトシテハ家屋稅及家屋割ガアル。(イ) 市ニアツテハ(a) 多クハ家屋稅家屋割ガ行ハルルガ、(b) 戸數割戸別割ノ行ハルルモアル。(註二  
 十二) (c) 家屋稅ノ外ニ戸別稅ノ補足的ニ行ハルルモアル。(註二十三) (ろ) 町村ニ在ツテハ  
 (a) 戸數割及戸別割ガ多ク行ハルルガ、(b) 特定ノ町村ニハ家屋稅家屋割ノ行ハルル  
 モアル。(註二十四) (上) 此家屋稅ト戸數割トノ差異、隨テ戸數割戸別割ノ性質ヲ考フルト、  
 (イ) 先ツ家屋稅ガ家屋ノ所有者ヲ納稅義務者トスルニ對シ、戸數割ノ方ハ家屋ノ使  
 用者又ハ住居者ヲ義務者トスルノ差異ガアル。(ろ) 家屋稅ハ明ニ收益稅又ハ部分財  
 產稅トイフヘキモノデアルガ、戸數割ニ至テハ其課稅標準ノ複雑ナルガ爲メニ一  
 概ニイヘナイ。(註二十五) (a) 其課稅標準ガ住屋ノ大サ又ハ屋賃ニアルモノハ使用稅ノ  
 一タル住居稅又ハ屋賃稅トイフヘク、(註二十六) (b) 所得財產ニ依ルモノハ一般所得及  
 財產稅トイフヘク、(c) 生計情態ニ依ルモノハ生計稅トイフ特殊ノ消費稅ト見ルヘ  
 キモノデアル。(d) 而シテ其他ノモノハ凡ヘテ雜種ノモノトイフヘキデアル。而シ  
 テ我國法デハ家屋稅ト戸數割トハ撰擇的トナツテ居ル。(註二十七) ガ、兩者性質異ル故  
 必要トアラバ重複スルモ差支ハナイ。

(註二十二) 例之、宇治山田市戸別割ハ縣稅戸數割ニ賦課ス、滋賀縣、\*

(註二十三)例之神戸市(家屋税ノ賦課ヲ受ケザル家屋ニ居住スル者ニ戸別税ヲ賦課ス)岡山市(縣稅家屋税ノ賦課ヲ受ケザル建物ニ居住スル者ニ對シ戸別税ヲ賦課ス) \*\*

(註二十四)例之愛知縣(特定ノ町村ヲ指定シテ家屋税ヲ行フ京都府(戶數割ハ家屋税ヲ賦課セサル町村ノ各戸ニ賦課ス) \*\* \*

(註二十五)小林博士が之ヲ以テ家屋税ト所得税トノ中間ニ位シ、而モ所得税ニ近似スルモノトストイヒ、更ニ或モノハ家屋税ノ如ク、或モノハ不動産收益税ノ如シトイフモ同意シ難イ。\*\*\*

(註二十六)さんしいあだむすハ屋賃税ハ一ノ住居使用税又ハ住居所得税ナリ。併シ實際ノ多クノ場合ヨリイヘバ借屋人(又ハ住居人)ノ所得ヲ税スルモノナリ。\*\*\*トイフガ、予ハ之ヲ以テ一ノ住居使用税トイフニハ賛成スルモ、之ヲ一ノ住居所得税也トイフニハ賛成セヌ。彼ノイフ如クニイヘバ總ヘテノ租税ガ一ノ所得税トイフコトナラナケレバナラヌ。其デハ租税ヲ分類シテ各税ノ性質ヲ明ニスルコト能ハザルコトニナルノ弊ニ苦シマナケレバナラヌコトニナル。

(註二十七)明治三二年六月勅令二七六號府縣稅家屋税ニ關スル件、

## 第二段 戸數割及戸別割ノ改造

(一)上記ニ依ツテ明ナル如ク、戸數割及戸別割ハ全國統一のデナイ。此ハ見様ニヨツテハ之ニヨリ各地方事情ニ適切ナル稅法ヲ設クルヲ得ルコトトナルトモイヘルガ、所謂地方税ニ於ケル一要求タル各地方特別事情ニ適應ストイフコトハ寧ロ二次的ニ租税ニ於テ充タスヘキモノデ、戸數割ヤ戸別割ノ如キ最重要ナル地位ヲ

\*\*\* 神戸市例規類集、岡山市條規

\*\*\* 愛知縣大正二年度、郡部縣稅賦課規則、京都府郡部府稅賦課規則

\*\*\*\* 小林博士、地方財政學四六五頁

\*\*\*\*\* Quincy Adams, Die Gebäude und Mietssteuer in Oesterreich. S. 64.



占ムル税ニアツテハ、其ヨリモ成ルヘク全國統一的トナシテ仍ツテ以テ各地方間ノ負擔不均衡ヲ出來ルタケ避ケル工夫ヲスヘキモノデアル。然レバ戶數割及戶數割ヲ廢止シテ代フルニ或國稅附加稅ヲ以テスルカ、左モナクバ此戶數割戶別割ニ何カ全國統一的標準ヲ國定スルコトトスベキデアル。

(二)所デ、此戶數割及戶別割ヲ補充的ノモノトスルナラバ別デアルガ、若モ之ヲ地方稅ノ主要ナルモノトスルコト今日ノ如クナル以上ハ、之ハ少クトモ其主部ヲ所得稅<sup>得稅</sup>的ノモノニ改造スヘキデアル。地方稅ノ主要ナルモノハ本來一般人的給付能力ヲ捕捉スル所得稅<sup>所得稅</sup>デナケレバナラスカラデアル。地方稅ニハ夫ノ利益原則ノ加味トイフコトガアリ、之ヨリシテ土地家屋營業ノ三ノモノニ多少特別ノ負擔ヲ課スルコトヲ至當トスルガ、其ハ飽迄モ加味デ、二次的デアツテ、所得稅ノ足ラザル所ヲ補フニ止マルヘキデアル。<sup>註二十八</sup>特ニ現在行ハルル戶數割戶別割ノ課稅標準ノ孰レモ不満足デ、到底所得稅ニ及バザルヲ見ルニ於テハ、戶數割戶別割ヲ全國統一的ノモノトスルナラバ、寧ロ其ハ所得稅的ノモノニ改造スルノ外ナイ。即チ例一般所得財產ニ依ルモノノ如キ、其標準ハ比較的好標準デハアルガ、其デモ所得稅ノ其ホドニ精確公平ナルコトヲ得ヌ。況ヤ住屋ニ依ルモノノ如キニ至テハ、下層社會

ニ割合ニ過大負擔ヲ課シ、家族ノ多キ者ニ對シ其少キ者ニ比シ過當ノ負擔ヲ課スル缺點ヲ免レヌ。(註二十九)生計狀況トイフコトモ結局獨斷的決定ニ流レテ不公平課税ヲ生スルヲ免レナイ。諸多ノ標準ノ結合ニ至ツテモ孰レモ適當ト認ムヘキ所以ヲ見出スニ苦シム。

(註二十八)小林博士ハ戸數割ヲ家屋税トシ貸賃價格ニ依ランコトヲ主張セラル。\*本多精一氏モ亦戸數割ト家屋税トヲ合セテ屋賃ヲ標準トスル家屋税ニ改メンコトヲ主張セラル。\*斯クテ兩君トモ地方税ニ於テ家屋税ニ重要ナル地位ヲ與エントセラルルカ如キモ、予ハ家屋税ニハ二次的地位ヲ與ヘ所得税ニ主位ヲ與フヘキモノト信ズ。尙ホ獨逸ノ地方ガ所得税ニ重キヲ置キ、家屋税ヲ附隨トスルユトニ付テハ註三ヲ參照。

(註二十九)わぐな一モ地方屋賃税ヲ採ルユトハ特ニ不其ナル消費税改造ニ外ナラズ。所得税ノ代リトシテモ不十分ナリ。所得税ノ傍ニ之ヲ置クコトモ不當ナリトイフテ居ル。\*\*\*るるわーリゆうモ之ニヨリテ貧者が富者ヨリモ割合ニ大負擔ヲ爲スノ不公平ヲ見ルトイフテ居ル。\*\*\*獨逸ニテモ嘗テ現行地方税法ノ舊魯西ニ出テタル當時(一八九三年)ニ在テハべりん、ふらんくふるさあんまいん、ばるれだんちつひ等ノ如キ大市ニモ住居税ガアツタガ今ハ大抵止マツタ\*\*\*獨逸ニテ今住居税ノ行ハレテ居ルノハ漸クうゆるてんべるひ國、めくれんぶるひしゆうえりん國、ぶれーまーばーふえん市、ふえげざつく市ニ止マル。\*\*\*

(三)斯ク戸數割戸別割ヲ所得税的ノモノニ改造スルトスレバ、既ニ國税トシテノ所得税ノ存スル以上ハ、之ヲ其附加税トスルノガ穩當デアル。(註三十)地方ノ所得調査

\* 小林博士地方財政學 四九三頁以下  
\* 本多氏地方財政問題 一七九頁以下

\*\*\* Wagner, Kommunalsteuerfrage. S. 5.

\*\*\*\* Leroy-Beaulieu, Traité de la science des finances, Tome I: p. 377.

\*\*\*\* Lohmann, Die besondere direkten Gemeindesteuern in Preussen. S. 28.

\*\*\*\*\* Birnbamm, a. a. O. S. 231, 370, 390, 391.

ト國家ノ其ト別々ニナツテ牴觸スルノハ宜シクナイカラ。併シ其地方税トシテ要求セラルル所得税ハ必スヤ一般人的給付能力ヲ一體トシテ捕捉スルノ所得税デナケレバナラス。然ルニ現行日本ノ國税所得税ハ此要求ニ應ズルニ足ラスカラ、此點カラシテモ國税所得税ヲ改良スルコトガ勸メラルル。國税所得税ハ此點ヲ離レテ其自身トシテ見テモ、尙ホ其種別課税ヲ改メテ統一課税ト爲スヘキモノデアルニ於テハ、尙更ニ其改革ガ勸メラルル。

(註三十) 獨逸ニ於テハ所得税附加税ガ多ク行ハルル(1) 先ツ市町村ニツキテハ特ニ普魯西ニアリテハ附加税ヲ原則トシ、特別ナル所得税ハ特別ノ理由アル場合ノミニ許サレ且ツ特段ナル許可ヲ要スル事トナツテ居ル。\* 此例外ヲ行フ市ハあるモノナトふるモノあんまいントデアル。あるモノナデハハ上層階級ニ國税ヨリモ輕率ヲ適用シ、下層階級ニ國税ヨリモ重キ稅率ヲ適用スル。ふらんくふるミデハ上層ハ國税ト同率、下層ハ之ヨリモ輕率トス(尤モ今ハ一體ニ稅率ガ上ホサレテ居ル)\* \* あるモノナノ變例は隣ニはんふるヒトイフ別ノ國ガアルノデ其所得税ト調和ヲ取ル必要トイフ特別事情ニ出ヅル。\* \* 其他あつかゝまんがざくせん大候國ざくせんまいにんげん、ざくせんあるてんぶるぐざくせんこぶるひごいた、こぶるひ諸候國等ニツイテ研究スル所ニ依ルト此等ノ國ニテモ市町村税トシテ所得税ガ最重キヲ成シ、ざくせん大候國以外ノ諸國デハ(ざくせんニテモ一部ハ)到ル處附加税ニテ課セラルトイフ。\* \* (2) 普魯西ノ郡<sup>クライス</sup>ノ直接税ハ管下ノ市町村ニ配賦シテ徵收セシメラルル。其配賦ノ標準トナルノハ所得税(隨テ國税所得税ノ附加税ヲモツコトトナル)及國家ヨリ賦課セラルル物税ノ、町村課税ノ基礎トナル所ノ豫

\* Lohmann, a. a. O. S. 23. Theisen, Reichs-, Staats- und Kommunalabgaben. S. 60. Most. Die deutsche Stadt und ihre Verwaltung. Bdl. S. 63.

\* \* Landsberg, Die Entwicklung des Gemeindeabgabenwesens in den preussischen Städten. (Verein für Sozialpolitik, Gemeindefinanzen. II, Bd. I. Tl. S. 22.)

\* \* \* Landsberg, a. a. O. S. 22. Lohmann, a. a. O. S. 23-25.

\* \* \* \* Ackermann, Thüringer Gemeindesteuern. S. 145.

算額トス。\*\*\* (3) 普魯西<sup>プロヴィンツベチルク</sup>ノ州又ハ縣ノ直接税ノ徵收ハ其管下ノ郡及市ノ義務トナル。此等ノ地方團體ヘノ配賦ノ標準トナルノハ所得税ト國家ノ賦課スル物税トノ豫算額トスル。\*\*\* 佛國ニテハ (1) 縣ニ於テハ Centimes additionnels トイフ國税直接税ノ附加税ヲ殆ト唯一ノ税トスルガ\*\*\* (2) 市町村ニテモ均シク同名ノ附加税ヲ主タル税ト爲ス。尤モ彼等ハ此外ニ特別税ヲモ有ツ。\*\*\* 由來此國ニハ所得税ヲ缺キタル故、所得税附加税ハナイガ、附加税ニ重キヲ置キタルユトハ事實デアル。尤モ佛國ガ所得税ヲ採用スルノ曉此縣及市町村ノ附加税ニ代ユルニ國税トハ少シク確定方法ヲ異ニスル所得税ヲ以テスルノ案ガアツタ。\*\*\* 其イ案デハナイ。

英國デハ Rate トイフ復雜ナル特別税制度ガ行ハレ、附加税主義ハ行ハレヌ。即チ一般ニ他ノ財源ヨリノ收入ニテ不十分ナルダケデハ、此税ニヨツテ不動産ノ純年産價値ヲ標準トシテ、當該經費ニヨリ保護利益又ハ便利ヲ受クヘキ人ニ課スルコトトナル。而シテ此レ一ノ種類ハ澤山ニアル。\*\*\* 尤モ英國ニモ例之ゴツシエンノ如ク地方税トシテ國税所得税ノ附加税ヲ勸ムル者ガアル。\*\*\*

澳國ニテハ地方直接税トシテハ一般ニハ直接國税(所得税ヲ除ク)ニ對スル附加税ガ行ハルルガ特定ノ地方ニハ特段ナル賦課方法ニ依ル特別地方所得税ガ行ハルル。\*\*\*

#### (四)

斯ク地方税ノ中心の租税ヲ所得税ト爲シ國税ノ附加税ヲ以テ之ニ充ツルコトトスルト、其國税所得税ニハ免稅點アルヲ免レナイガ、地方税トシテハ消費税ノ細民ヲ抑壓スルモノモ之レナイカラ、此免稅點以下ニ在ル下層民ニモ其一般的給付能力ニ依ル多少ノ負擔ヲ課スルヲ至當トスルノ故ニ(註三十二)此ニ對シ補充所

\*\*\* Theisen, a. a. O. S. 85.  
 \*\*\* Theisen, a. a. O. S. 89.  
 \*\*\* Colson, Cours d'économie politique. Livre 5. p. 264.  
 \*\*\* Colson, l. c. p. 265.  
 \*\*\* Haristoy, L'impôt sur le revenu. p. 872.  
 \*\*\* Wright and Hobhouse, Local government and local taxation in England and Wales. p. 148. Fry, The local taxes. p. 8&c.  
 \*\*\* Grice, National and local finance. p. 82.  
 \*\*\* Mischler, Grundlagen des Gemeindehaushaltes in Oesterreich. (V. f. S., Gemeindefinanzen, II Bd, I Tl.

得税トシテ又ハムシロ戸數割戸別割ノ名ヲ存シテ、其屋賃ニ應シ少數ノ等級ニ分ツテ輕小ナル租税ヲ取立ツルコトヲ適當トスルコトナル。勿論其ハ屋賃額ニ對シテ累進的ノ課税トナルヤウニ定メナケレバナラヌ。(註三十二)斯クテ戸數割戸別割ノ主要ナルモノハ所得税ニ改造サルル、否ナ從來ノ所得税附加税ニ併合サルルコトトナルガ、尙ホ下級ノ處ニテ其存續ノ餘地アルコトトナル。

(註三十二)普魯西ニテモ實際地方所得税ニアツテハ國稅ノ免稅點以下ノモノニモ課税シテ居ルモノガ多イ。一九〇八年ニ三十四ノ大都市ノ中デ、十四市ニテハ地方所得税ノ免稅點ヲ四二〇馬克トシテ居リ、八市ニテハ六六〇馬克トシ唯十二市ノミガ九〇〇馬克トイフ國稅ノ免稅點ヲ保ツテ居ル。\*

(註三十二)此小民ニ對シテモ所得税ヲ課スルコトトシテモ良イガ、手續繁雜ニヘ、屋賃ヲ標準トスル戸數割トスル。之ヲ輕小トシ且少累進課税トスレバ大シテ不公平トハナラヌ。唯タ此ニ所得税ニ於テ先例ノアル如ク家族ノ數ヲ斟酌スルノ制度ヲ併用スレバ一層良カラウ。尤モ此ニ家族ノ數トイフノハ小供ノ數ト解スヘキモノデアアル。

(五)斯ク戸數割戸別割ヲ所得税附加税ニ改造スル以上ハ其附加ノ制限率ハ現行ヨリモ遙ニ寬大ニシテ、例之獨逸ノ例ノ如ク(註三十三)市町村一〇〇%府縣二五%位ニシテ良イ。而モ各地方團體ニテ必要アルニ於テハ政府ノ許可ヲ得テ此制限ヲ超ユルコトヲモ認メタラ良カラウ。(註三十四)今日日本デハ所得税附加ノ制限ガ餘リニ

\* Landsberg, a. a. O. (in V. f. S., Gemeindefinanzen. II. I. S. 22-23.)

嚴酷ニ過グルカラ、切角好箇ノ財源ガ地方團體ノ爲メニ鎖サレ、不公平ナル戸數割戸別割ニ重キヲ置カナケレバナラヌコト、トナツテ居ル。尤モ現行ノ如キ不公平ナル國稅所得稅ニ大ナル附加ヲ認ムルトセバ其不公平ヲ一層助長スルトイフ恐ガアルトモイヘル。隨テ此ガ附加ノ制限ヲ嚴重ニスルノモ無理モナキコトデアルガ前項ニ説ク如クニ國稅所得稅ヲ改造スルニ於テハ此制限ハ寛大ニシテ良イ。日本デハ兎角國家ノ利益ノ爲メニ地方ノ利益ヲ制限スル傾ガ大キイガ、地方ノ利益ハ畢竟國家全體ノ利益デモアルカラ、今少シク國家ガ地方ノ正當ノ利益ヲ顧慮スルコトニ傾クコトガ望マシイ。此精神ガ行ハルルコトニナレバ、附加稅ガ大クナツテ多少ノ不利ヲ國稅ニ及ボシテモ國家ハ認容スルノ外ハナイ。尤モ附加稅ノ如何ガ國家ニ痛切ナル影響ヲ及ボスダケ自ラ國家モ地方ノ財政及廣ク行政ニ相當ノ監督ヲ行フコトニナルデアラウシ、又其ヲ爲スコトガ必要ニシテ當然デアル。

(註三十三) 日本ニテハ所得稅附加稅ノ制限率ハ明治四十一年法律三十七號ニヨリ北海道府縣四% 其他ノ公共團體、一五%(第二種所得ニ附加稅ヲ課スルヲ得ズ) 舊魯西ニテハ市町村ニテハ一〇%、% 郡ハ五〇% 州又ハ縣ハ二五%ヲ制限率トスル。\* 併シ實際ニハ此制限ヲ超ユルモノガ頗ル多イ。勿論許可ヲ得タル上、行ハル斯ウテ例之一九一〇年舊魯西ノ市及大ナル村ニ於ケル國稅所得稅ノ附加稅ノ一五〇%及以下ナルモノ三百五十八、一五〇以上二〇〇%マテナルモノ五百七十

\* Theisen, a. a. O. S. 69-70. 88. 89.

五、二〇〇以上二五〇%ナルモノ三百三十九、二五〇%以上ナルモノ百〇九デアツテ、一九〇八年  
 普魯西ノ郡ニ於ケル國稅所得稅附加稅ノ二〇%及以下ナルモノ五十九、二〇%以上四〇%マデナ  
 ルモノ二百六十、四〇%以上八〇%マデナルモノ百十五、八〇%以上ナルモノ五十五、五及シダトイ  
 フ。\*\*\*更ニ別ノ報告ニ依ルト一九一一年普魯西ノ人口一萬以上ノ市ノ中二十二ニテハ國稅所  
 得稅ノ附加率一二五、一五〇%、五十二市ニテハ一五〇、一七五%、七十市ニテハ一七五、一  
 〇〇%、九十八市ニテハ二〇〇、一二五〇%、五十九市ニテハ二五〇%以上デ、最高三〇〇%ナルガ  
 アルトイフ。\*\*\*而モ附近ノ市ニテモ隨分此附加率ノ相違が大キイ。例之らいん地方ノ十大工業  
 市ニ於ケル其チ見ルト、ぢゆつせるるふ一四五%、あーへん一七七%、くれふえるび一九〇%、ぢ  
 ゆいすぶるひえつせん、みゆーるはいむ二〇〇%、ぞりんげん二二〇%、ばるめん、れむしやいど、ざ  
 ーるぶりゆつけん二三〇%、デアル、更ニらいんらんど、うえすとふありあノ田舎村落ニシテ二五  
 〇、三〇〇、三五〇、四〇〇%ノ高キ附加率サヘ有スルガアルトイフ。\*\*\*而シテ最近一九一四年  
 ニ於ケル重ナル都市ニ關スル報告ニ依ルト、伯林トしやるろつてんぶるひとが一〇〇%、ふらん  
 くふるとあんまいんが一三六%(平均)ぢゆつせるるふ一四五%、けるん一五五%(多クハ)ぶれす  
 らう一六八%、デアル。\*\*\*尙ホ普魯西ノ市ノ所得稅附加率ノ發達ノ大勢ヲ示シタルモノニ  
 依ルト、\*\*\*

率	一八七五	一九〇七	一九〇九	一四一、一八〇%	註、	元、
一〇〇%及以下	四、	一〇、	七、	一八一、二二〇%	三、	四、
一〇一、一四〇%	四、	一、	二、	一一一、一六〇%	五、	一五、

尤モ同シク獨逸内ニテモしゆわるつぶるぐるすたつと國ノ如キハ市町村ニ於ケル所得稅  
 附加稅率ヲ五〇%ニ限定スル。\*\*\*

\* \* Trüstedt, Die deutsche Kommunalbank. S. 17.  
 \* \* \* Dawson, Municipal life and government in Germany, p. 384.  
 \* \* \* \* Dawson, l. c. p. 385.  
 \* \* \* \* Rompel, a. a. O.  
 \* \* \* \* \* Lückner, Die Entwicklung und die Probleme des Gemeinde-  
 abgabenwesens in den Städten und grossen Landgemeinden der  
 preussischen Industriebezirke, (V. f. S., Gemeindefinanzen II  
 Bd. III Tl. S. 34.)  
 \* \* \* \* \* Most, a. a. O. S. 65.

(註三十四)大正元年度日本所得稅收入が三八・九三三、四九八圓ナルニ對シ、同年度ノ日本ノ町村ニ於ケル戸別割收入六二・六八一・七六二圓市區ニ於ケル其が二六・九七・九七五圓府縣ノ其が一六・五一・九五〇九圓府縣ニハ家屋稅合算デアル。然ルトキハ所得稅附加稅ヲ以テ戸別割及戸數割ニ代ラシメヤウトスルニハ市町村一〇・〇%府縣二五・%ノ附加率デハ足ラヌヤウトニ見ユルガ予ノ考案ハ所得本稅ノ改革ヲ行ツテ增收ノ結果ヲ生ズルコトヲ前提トスルカラ、此法定率デト分デアラウト思フ。特ニ必要アル場合ニハ許可ヲ得テ制限率ヲ超ユルコトトモナルカラ其デ宜カラウ。

(六)然リ而シテ右所得稅附加稅ニ附隨シテ存續セシメラルル所ノ戸數割戸別割ノ課稅標準ハ之ヲ屋賃ニ置クトイフタガ、此モ決定ノ方法ヲ一定シテ置カヌト、各地區々ニナリ不公平トナルヲ免レヌカラ、一ノ標準的規定ヲ要スル。現實ノ屋賃トイフテモ往々ニシテ人的特別關係カラ定マルコトガアリ、又之ヲ見出スコトノ困難ナル地方モアルカラ、其住居ノ屬スル土地及建物ノ價格ノ一定百分率ニ定メタラ、良カラウト思フ。又其稅率ヲ定メルニハ所得稅附加稅トノ鈎合ヲ考ヘ、其方ノ最下級ヨリモ相當ニ低クナルヤウトニ定メナケレバナラス。而シテ斯ノ如クニ戸數割及戸別割ヲ單ニ所得稅附加稅ノ補充的ノモノトスルニ於テハ、別ニ家屋稅ヲ國稅トシテモ地方稅トシテモ採用シテ大ナル差支ナキコトトナル。ガ此事ハ茲ニハ詳説セヌ。敢テ別ノ論文ニ讓ル。(註三十五)



(註三十五) 勿論前ニモイフ如ク、其家屋税ハ地租營業税ト相並ンデ所得税ニ對シテ二次的ノモノトスル。特ニ田舎村落トナレバ、其中家屋ト營業トハ重キヲ成サズ、地租ガ最重要ナルモノトナラナケレバナラス。

## 結 論

以上縷説スル所ヲ要スルニ、現在日本ニ於ケル地方税ニテハ戸數割戸別割トイフ獨特ノモノガ最重要ナル地位ヲ占ムルガ、其課税標準ガ不統一且ツ不適當デ、大ニ不公平ナル結果ヲ生ズルカラ、決シテ地方税ノ中心タラシムヘキモノデナイ。宜シク之ヲ廢止シテ代フルニ所得税トイフ中心の租税タル資格アルモノヲ以テスヘク、而モ其ハ國税ノ附加税トスルノガ穩當デアル。但ダ之ガ爲メニハ現行所得税制度ノ下デハ不満足ナル結果ヲ生ズルコトニナルカラ、先ツ根本的ニ此國税カラシテ人的一般的給付能力捕捉ノ出來ルモノニ改造シテ掛カラナケレバナラス。又既ニ此所得税附加税ヲ以テ戸數割戸別割ニ代ラシムル以上ハ、其附加ノ制限率ハ擴張スルコトガ當然デアル。而シテ又此國税所得税ニハ免税點ガアルガ、地方税ニハ國税ノ如ク消費税モ殆ンド之ナキニ近キ所デアルカラ、免税點以下ノ細民ニモ多少ノ直接課税ヲ爲スガ至當デアル。茲ニ於テカ右所得税附加税ノ補充税トシテ

一定ノ決定方法ニ依ル屋賃ニ基ク累進課税的ニシテ輕易ナル戸數割戸別割ヲ新設スルヲ要スルコトナル。日本ノ地方税制度ハ斯ノ如クニシテ初メテ革新ノ基礎ガ出來ルデアラウト思フ。(大正五年一月一日稿了)